

平成 30 年 10 月 5 日

ジャンボリーの魅力

一社) 日本ボーイスカウト静岡県連盟
県連盟コミッショナー 小林 透

本年 8 月、石川県珠洲市リフレッシュ村鉢ヶ崎で開催された、第 17 回日本スカウトジャンボリーは、観測史上最高の気温を記録する暑い夏の中、国内外から 1 万 3 千人が集まり、「暑い夏」を上回る熱気に満ちた大会になりました。今回の参加数は、珠洲市の人口に匹敵するスカウト・スタッフ数であり、突然、珠洲市の人口が 2 倍になった一週間となりました。

さて、ボーイスカウトの創始者はジャンボリーの効果について「普通の少年のスカウト生活というものは、比較的短いものである。そしてさまざまな年代のスカウトが少なくとも一回は参加するのは良いことである。何故なら、そうすることによって少年は、自分が本当に偉大な友愛団体の一員だということが分かるようになるし、同時に他の地区や国のスカウト仲間と個人的に知り合いになることができるからである」と語っています。

1 万人以上のスカウトが同じ制服を着て、交流できたこと、アリーナでは、同じ「ちかい」と「おきて」を唱和し、その中にある無私の善意と協力の精神を体験できたこと、そして何よりもこれだけの多くのスカウトが存在していることを実感することができ、自分が偉大なボーイスカウトの一員であることに自信を持ったことでしょう。

さらに創始者は、ジャンボリーは、スカウトにとって良いことなのかという問いに対して、「何時も最も良いと考えている権威者に相談することにしてはいる。すなわち、少年たち自身に」と語っています。

ジャンボリーに参加したスカウトの姿は、ジャンボリーの時の暑さに負けないうらい熱気に満ち溢れ、リーダーシップやメンバーシップを発揮し、自信をもってスカウト活動に向き合っていないでしょうか。

もう一度聞いてみてください。ジャンボリーに参加したスカウトに。

「ジャンボリーに参加して良かった」かと。